

徳島県立文書館研究紀要掲載論文

| 第8号 令和3年3月刊 | |
|---|--------|
| 棟附帳の成立 | 宮本 和宏 |
| 阿州和田島村へやって来た「御城米船」 —庄屋・森家文書を中心として— | 板東 英雄 |
| 土御門御陵所在地論争に見る「由緒」の創造 | 石尾 和仁 |
| 栗飯原庄太夫の記録に見る天保十四年の水害「七夕水」 | 金原 祐樹 |
| 御旗の者の戊辰戦争出征報告書について —武藤家文書「御旗一卷并組御旗之者江申付方諸事手控」より— | 西本 沙知子 |
| 公文書館と学校現場との連携に関するアンケート結果について | 嵐 大二郎 |

| 第7号 平成29年2月刊 | |
|--------------------------------------|-------|
| 戦国期阿波三好氏の動向と地域権力 —永禄期～天正期を中心に— | 山下 知之 |
| 近世徳島藩における紙専売制とその展開 | 町田 哲 |
| 郷鉄砲の成立と展開 —名西郡入田村一宮家文書を中心— | 金原 祐樹 |
| 幕末維新时期藍作地帯における村方騒動 —阿波国板野郡竹瀬村を中心— | 徳野 隆 |

| 第6号 平成26年10月刊 | |
|---|-----------------------|
| 二つの「一国一城令」と阿波九城の終焉をめぐって | 宇山 孝人 |
| 藩から県へ：徳島県における政治的発達、1871年～1880年 『極東の歴史に関する論攷』12号(1975年9月)所収 | アンドリュー・フレイザー 逢坂俊男訳 |
| 徳島県立文書館 公開古文書一覧 | 金原 祐樹 |

| 第5号 平成17年3月刊 | |
|-----------------------|-------|
| 褒められた人々 | 高橋 啓 |
| 徳島県人の北海道移住と蜂須賀農場 | 佐藤 正志 |
| 「加登屋日記」に見る民衆の娯楽 | 阿部 聡美 |
| 「為後年書記」すべき文書とは | 徳野 隆 |
| 徳島県立文書館の展示に関するアンケート結果 | 金原 祐樹 |

| 第4号 平成15年3月刊 | |
|---------------------------------|-------|
| 近世村落の田畑と里山 | 水本 邦彦 |
| 阿波藩における年貢徴収の仕組みと検地帳 —「春請制」を中心に— | 宇山 孝人 |
| 井口家文書(上月家文書)の近世史料と伝来 | 金原 祐樹 |
| 美馬郡東端山 武田家文書『御觸帳』目録(二) | 松本 博 |

| 第3号 平成14年3月刊 | |
|--|-------|
| 自由民権運動と徳島 | 稲田 雅洋 |
| 阿波藩における幕府への報告石高の内実 ～天保郷帳を中心として～ | 宇山 孝人 |
| 酒井家文書の法事帳 | 金原 祐樹 |
| 近世後期における阿波商家の支店運営 ～藍商鈴屋「坂東家文書」書簡より～ | 外園 英彦 |
| 美馬郡東端山 武田家文書『御觸帳』目録(一) | 松本 博 |

| 第2号 平成13年3月刊 | |
|--|-------|
| 徳島県における屯田兵の募集と北海道移住 | 平井 松午 |
| 学校教育資料の整理・保存と利用 —徳島県立脇町高等学校芳越歴史館資料の展示と目録作成から— | 逢坂 俊男 |
| 北海道開拓と徳島 —徳島県人の北海道移住関係資料調査事業報告— | 立石 恵嗣 |
| 徳島県内の市町村公文書管理の現状について —実態に関するアンケート集計結果より— | 金原 祐樹 |
| 徳島藩の裁判 —裁許所のしくみと役割— | 安澤 秀一 |

| 創刊号 平成9年3月刊 | |
|-------------------------------|--------|
| 史料と歴史叙述 —利用のあり方をめぐって— | 三好 昭一郎 |
| 地方文書館の使命と課題 —地域に根ざした文書館像を求めて— | 大和 武生 |
| 棟付改への抵抗 —東端山 政所 助左衛門— | 宮本 和宏 |
| 絵図資料の保存と利用 —徳島県立文書館の場合— | 立石 恵嗣 |
| 徳島県立文書館のデータベースシステム | 金原 祐樹 |
| 蜂須賀重喜の改革 —主君「押込」の慣行をめぐって— | 笠谷 和比古 |